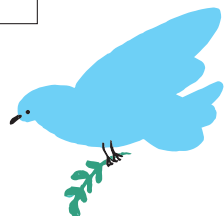




若い人の想像力に期待

核のない世界へ



8月19日、東京都原爆被害者協議会（東友会）の片田靖子さんをお招きして、平和学習会「被爆80年 核のない世界へ」を当社のコミュニケーションスペースゆいのわで開催し、20名が参加。会場には被団協様が作成したパネル「原爆と人間展」と基町高校の生徒が描いた「原爆の絵」を展示しました。



被爆直後の広島で見たものは

1945年8月7日、当時5歳だった片田さんはお母さんとともに東京から熊本に向かう途中、広島駅1つ手前の海田市駅で列車を下ろされ、己斐駅から列車が出ているとのことで、歩いて広島市を横断し、入市被爆されました。

片田さんのお母さんの手記には『市内に入っていくにつれ、あちらに一塊、こちらに一塊、死んでいる人、半分死にかかっている人、すっかり焼けてしまった黒焦げの死体など…この世の地獄としか言いようのない有様に、あまりのむごさに目を覆いたくなるような状態だった。…「お母さん、お母さん」とよんでいる若い女の人。焼けただれた電車の中も死体でいっぱい。…当時を思い出すとあまりのむごさに今でもペンを持つ手がふるえてく



る』と克明に書かれています。ただし、片田さん本人は5歳なのに、当時の記憶が一切ないそうです。あまりの恐ろしさに記憶の一部が失われたのではないかと仰っていました。

孫の鼻血に不安な日々

片田さんは結婚され、今はお孫さんもいらっしゃるとのこと。当時1歳半のお孫さんが毎日のように鼻血を出したことがあり、『私が被爆者だから?』と悩まれたそうです。被爆者はこのような不安を一生抱えながら亡くなるまであるんだと感じたそうです。そのお孫さんが大学の卒業制作で原爆の作品を取り上げた(参照 東北芸術工科大学 グラフィックデザイン学科 片田日菜子さん https://www.tuad.ac.jp/g_document/works/2023/6618/)ことや基町高校の生徒が描いた絵についても触れられ、いろんな表現の仕方があっていいとこの頃は思っているとのことでした。



次世代へのメッセージ

「被爆者の話を見たり聞いたりして表現してくれることが本当にありがたいなと。被爆者はそのうちいなく

なってしまうので、今は資料もいっぱいあって、若い人たちは想像力も豊かだから期待したい。(体験談を話すととても良い感想が寄せられて)本当のことが知らされた時、若い人ってすごいな、励まされた。自分の思いをもっと伝えていいんだなと。平和に向かっていないと思うので諦めず運動を続けていきたいなと思っています」

[参加者からの感想]

- お孫さんが鼻血を出した時に不安な思いになったという話が印象的でした。世代を超えて被害が出たり、一生不安が付きまとうことが放射能被害の恐ろしさだと思った。また被爆者運動のお話を伺うことができ、現在の核反対の世論は自然に生まれたものではなく、被爆者を初めとする多くの方々の努力によって勝ち取ったものだと思えて感じた。
- 『核兵器は必ずなくせる』ことに確信をもってあきらめずに運動を続けます。

- 被爆者の証言は一人ひとり違うのでどれも貴重。聞いた私たちが次の世代へつないでいかなければいけない。

この講演は当社のYouTubeにアップしています。ぜひご覧ください。チャンネル登録もよろしくお願いします。



戦後80年の今年の夏、当社のキャラクターゆいゆいが、平和のモニュメントと戦争遺跡をXで紹介してきました。リーフも作成しましたので、ぜひご覧ください。



information

コミュニケーションスペース「ゆいのわ」

あかつき印刷APビル4階にあるコミュニケーションスペース「ゆいのわ」は、お客様同士がつながって交流の輪が広がるようにとネーミングした通りに、会議や学習会の場としてご活用いただいております。

ゆいのわ以外にも8名様までご利用いただけ

る会議室が2つ(「PEACE」と「EARTH」)ございます。また、くつろぎスペース(このみ飲食可能)には机4脚、イス4脚とソファがございます。当社の営業日(9:00~17:00)の貸し出しとなります。お気軽にご相談ください(第1営業部TEL:03-3497-0531)。



コミュニケーションスペース「ゆいのわ」

設備: wi-fi、ホワイトボード1台
配信・動画撮影等のご希望にも
お応えしております。



会議室「PEACE」と「EARTH」



くつろぎスペース



ご利用
お待ちしております



次回のゆいのわ企画は

11月28日(金)18:30~「健康は食事から(仮)」講師:代々木病院 栄養課 管理栄養士 木下瞳さんです